

消費者教育実践事例集

第53回

買い物から適切な意思決定を学ぶ

山野内 友里 Yamanouchi Yuri 大分県立日田三隈高等学校教諭

きっかけは生徒との会話



本校は生徒一人一人の進路に沿った科目選択ができる総合学科です。全125科目のうち、家庭に関する科目は1年次「家庭基礎」のみが全員必修となっています。限られた時間の授業では、卒業後の自立を目標に、家庭科なりのものの見方・考え方を磨くことを心がけています。

現在の高校生にとってネットでの買い物は特別なものではなく、普通の実践です。ある日生徒と話していると、「フリマアプリで頼んだ商品、お金を払ったが届かなかった」と言います。詳しく聞けば、「(忙しいので) 質問対応等は一切いたしません、と書いてあった。それでも500円と安かったので、だまされてもいいやと思って買った」と言われてしまいました。

少額ならばだまされてもよい、という意思決定は、正しいとは言えません。一生懸命働いて得たお金をどう使うかも、自立するうえで大切な視点です。また、自分の払ったお金のその先を知ること、社会の一員である消費者として行動するためには欠かせません。このような思いから、「質の高い意思決定力」と「社会の一員である消費者として行動する力」を身に付けさせることをねらいとして、消費生活に関する単元で「買い物を考える」授業を行いました。

授業実践の内容



授業は全6時間構成(初級編・中級編・上級編)です(表1)。

《初級編》では、購入場面に潜むリスクの予測、情報を収集し見極める力を育成することを

表1 単元の学習計画

時数	題目	主な指導内容
1	買い物を考える《初級編》	・適切な意思決定
2	買い物を考える《中級編》 1) あなたならどうする?	・契約 ・消費者問題とその背景
1	2) 見えないお金の使い方	・クレジットカードによるお金の管理
2	買い物を考える《上級編》	・消費行動と社会との かかわり

ねらいとしました。

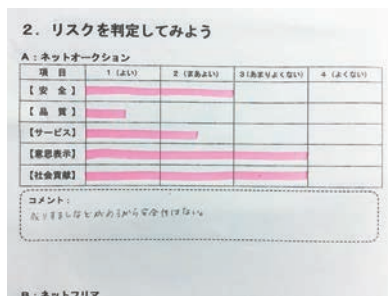
購入方法を4つ(ネットオークション・ネットフリマ・ネット通販サイト・メーカー直営サイト)に限定し、メリット・デメリットを書き出させます。その後、実際に起こった消費者問題をもとに作成した「事例カード」を用い、自分たちの想像を超えるトラブルを疑似体験させました。例えば、ネットフリマで商品の箱の写真を掲載し、本体は付属しない旨の説明をきちんと読まない消費者に箱だけが届いた事例や、ネットオークションで他人になりすました人にお金をだまし取られた事例などです。理解するのが難しい事例も、グループ活動にすることで互いに教え合い、自分たちの力で読み解く姿が見られました(写真1)。また、事例に似た自身の体験を語り出すなど、当事者意識を持って話し合いが進められたことが印象に残っています。

そして、見極める手段として、4つの購入方

写真1 学習のようす



写真2 生徒の作成したグラフ



法のリスクの判定グラフを作成させました。安全・品質・サービス・意思表示・社会貢献の5つの点からみたリスクについて、線を引くだけの簡単なグラフで、自分たちの考えを目に見えるかたちで創出させます（写真2）。個人の意見をグループでまとめる際、根拠を持って意見を伝え合うことを意識させました。さらに、他グループのグラフも見てもらい、意思決定の基準が人によって違うことも理解させました。生徒からは「買い物は楽しいだけでなく、怖い一面もあることを知った」との声がありました。

《中級編》では消費者問題への対応について、ロールプレイングを通して体験的に学びました。これは、事前アンケートで「買いたくない物を売られた時、断ることができる」への回答率が低かったことを受けて設定しました。

《上級編》は自分の買い物と世界のつながりに気づかせることをねらいとし、特定非営利活動法人ACEのワークショップ教材「このTシャツはどこからくるの？」を活用しました。

学習記録に見る意思決定の変化

単元を通して生徒の学びを1枚の紙に記録していく「ワンペーパーポートフォリオ（OPP）」と呼ばれる方法を活用しました。初めに、「最近買ったTシャツ、どこで・いくらで・どうして買った？」という質問に回答させ、学習前の素直な意思決定を記録します。毎回の授業で学んだことを記録し、すべての授業終了後、記録用紙を半分折り返すと、学習前の自分の意思決定の隣に学習後の意識が並ぶことにな

ります。これによって学習による変容を確認できます。

ある生徒は、学習前の「ネットで1,500円程度で購入。好みのデザインで必要だったから」という回答が、「安さだけを求めず、長く着られるものを選びたい」「将来販売員になったら、生産地にも配慮する等、大人だからこそできることをしたい」「はじめは1,500円程度と値段にこだわっていたが、質にも目を向けたいと思った」という思考に変化していました。

生徒の価値観に働きかける成果も

生徒の記録で特に印象的なのは、「安いモノを作る会社だけが生き残る社会で働きたくない」という言葉でした。回答した生徒は将来アパレル業界で働くことを希望しており、キャリア教育活動の中でアパレルショップ店員にインタビューをしていました。この授業での学びとキャリア教育とが生徒の中でつながり、見方・考え方が深まったのではないかと考えています。また、実践から1カ月後の定期考査での解答からは、生徒の中で学習内容が育ち続けているようすを見ることができました（表2）。

これから先も世の中は進化・多様化すると予測されます。買い物に限らず「意思決定」に対する意識が育ち続け、考え続けてくれればと思います。今後は授業の改善に加え、学校家庭クラブ活動や高齢者福祉施設との連携等、地域の一員としての活動を計画・実行し、生徒の活躍の場を広げていきたいと考えています。

表2 考査での出題と解答例

【問い】消費行動でできる社会の創造について、自分の考えを述べなさい。ただし、指定された語句を4つ以上使用すること。

【実際の解答例】

私は一人の消費者として、児童労働等で作られた商品を買いたくはない。商品を買うのは選挙と同じで、その会社に投票し、賛同、支援をすることである。

価格も大事だが、その商品がどのように作られたのかを知ることの方が大事だと考える。